

CASBEE京都-新築(2015年版)
 (仮称)京都市右京区西京極北大入町計画 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE 京都-新築 (2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音					4.0	0.15	3.4	1.00	3.5	
1.2 遮音					3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2.1 開口部遮音性能				T-2以上	5.0	0.50	3.8	0.50		
1.2.2 1 開口部遮音性能					5.0	1.00	5.0	0.30		
1.2.2 2 界壁遮音性能					-	-	3.0	0.30		
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				L-45	-	-	4.0	0.20		
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音					-	-	-	-		
2 温熱環境										
2.1 室温制御					1.6	0.35	2.2	1.00	2.0	
2.1.1 1 室温					1.0	0.50	2.2	0.50		
2.1.1 2 外皮性能					1.0	0.63	3.0	0.63		
2.1.1 3 ゾーン別制御性					1.0	0.38	1.0	0.38		
2.2 湿度制御					1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境										
3.1 昼光利用					3.5	0.25	3.7	1.00	3.6	
3.1.1 1 昼光率	●自然	A(全国版準用)	居室:2.0% ≤ [昼光率]		5.0	0.30	3.4	0.50		
3.1.1 2 方位別開口					5.0	0.60	5.0	0.50		
3.1.1 3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)	共用部:昼光利用設備が1種類ある。		5.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策					1.0	0.30	4.0	0.50		
3.2.1 1 昼光制御	●自然	B(推奨内容)	カーテン、庇を組み合わせて制御。		1.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度					3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				自動照明制御ができる。	5.0	0.25	-	-		
4 空気質環境										
4.1 発生源対策					3.6	0.25	4.0	1.00	3.8	
4.1.1 1 化学汚染物質				F☆☆☆☆を全面的(床・壁・天井・天井裏の面積合計の70%以上)に採用	4.0	0.60	4.0	0.63		
4.1.1 2 アスベスト対策					4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気					3.0	0.40	4.0	0.38		
4.2.1 1 換気量					3.0	0.50	3.0	0.33		
4.2.1 2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)	居室面積の1/8以上の開閉可能な窓を確保している。		-	-	4.0	0.33		
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮			汚染源のない方位に設けられ、3m以上離れて設置		3.0	0.50	5.0	0.33		
4.3 運用管理					-	-	-	-		
4.3.1 1 CO ₂ の監視					-	-	-	-		
4.3.2 2 喫煙の制御					-	-	-	-		
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ					2.4	0.40	2.8	1.00	2.6	
1.1.1 1 広さ・収納性					3.0	0.40	4.0	0.60		
1.1.1 2 高度情報通信設備対応				各住戸に100Mbitクラスのブロードバンド利用可能環境が整備	-	-	4.0	1.00		
1.1.1 3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)			3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	1.0	0.40		
1.2.1 1 広さ感・景観	●とも	C(独自加点)			-	-	1.0	0.50		
1.2.1 2 リフレッシュスペース					-	-	-	-		
1.2.1 3 内装計画	●自然	D(独自基準)			1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理					3.0	0.30	-	-		
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-	-		
1.3.1 2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-		
1.3.1 3 衛生管理業務					-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震					2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1.1 1 耐震性					3.0	0.50	-	-		
2.1.1 2 免震・制振性能					3.0	0.80	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.20	-	-		
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)			2.9	0.30	-	-		
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-	-		
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					2.0	0.20	-	-		
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔					2.0	0.10	-	-		
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.10	-	-		
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔				主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	5.0	0.20	-	-		
					2.0	0.20	-	-		

2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					2.8	0.30	2.5	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり					-	-	2.0	0.50	
1	階高のゆとり				-	-	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					2.8	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				[BPI _m] = 0.89	3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 0.73 住宅(専有部) 1.02	4.0	0.50	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)				[BEI _m] = 0.73	1.0	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)				LED照明の採用	4.0	1.00	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	-	-	-	
集合住宅の評価					3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護					2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水					1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	リサイクル資材を3品目以上用いている。	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.5	0.70	-	-	
1	消火剤			ODP<0.01未満、GWP<50(GWP(100年値)を用いた断熱材等を使用)	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				4.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出率=90%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮					2.7	0.33	-	-	2.7
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制				1.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			「光害対策ガイドライン」一部を満たし、広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる